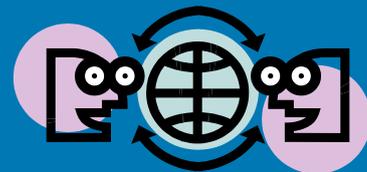




桐



大東文化学園教職員組合連合機関紙
2016年2月2日発行 第1100号

大東文化学園教職員組合連合

〒175-8571 板橋区高島平1-9-1

tel/fax. 03-3935-9505

大学組合ホームページ

<http://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/>



Facebook
大東文化学園
教職員組合連合



Twitter
@daitounion

この号の内容

組合新年の集いに 関する報告

2016 連合新年の集い開催

2016年1月25日(月)18時半から20時半にかけて、例年通り、教職員組合連合の新年の集い(旗開き)を板橋校舎生協食堂で行い、20名ほどの組合員が参加し、終始和やかな雰囲気でお話を深めました。また沼口委員長より、今後の春闘等に対する希望を一人一人忌憚なく話してほしいという要望もあり、それぞれが自由に意見を述べ合いました。その内容は以下の通りです。

(1)高校側

- ①クラブ指導手当の支給
- ②350人定員を満たせと言っても教室が満員状態であり、インフラの改善を望みたい。
- ③校舎が汚いので、建て替え等を望む。
- ④入試業務がかなりきつい。なお、入試業務は現在、有能な嘱託職員が担っているが3年で雇用期限が切れてしまい、また新しい人に引き継ぐのは時間的にもロスであり、こうした人を引き続き雇用してほしい。さらに1度職員採用試験を受けて通らなかった者には再チャレンジができないようになっているのも問題ではないか。
- ⑤休日の業務があつたりした時に、代休が取れるようになっているとはいえ、実際は授業のこともあり取りにくい。有給休暇が取りやすい環境を整えてほしい。
- ⑥高校でも大学と似たような春闘アンケートができると良いのであるが。

(2)大学側

- ①一時金について東日本大震災で被災した福島の学生の奨学金のために減額したとはいえ、その分が未だに戻されていないのは問題で、そのことで組合批判が出ている。(註一実際には減額された一時金は、被災した福島の学生に限定したのではなく、一般の学生に対する奨学金として使途を限定してある。)
- ②春闘で闘っていくとしても、経営側との妥協は必要であり、現実的な要求を少しずつして、小さな積み重ねをすることが必要である。あまり妥協しない態度をとれば、却って組合活動が潰される恐れがある。しかも各学部間でも立場が全く異なっており、ここでも各学部間の団結ではなく妥協が必要である。また何よりも大事なことは研究環境の維持であり、そのための闘いが求められる。
- ③現在65歳定年の者も含めて70歳まで雇用できる条件を確保するため、ある程度の妥協は必要
- ④中長期財政計画から経営側は大東の経営は苦しいとしているが、本当はそうとは言えない。
- ⑤学園財政が苦しいのであれば、人件費全体はそのままにして、年齢の高くあまり効率よく働けない教職員を減給し、若く比較的よく働く教職員に再配分するといった対応が必要ではないか。(註一現在、組合としては役職者手当の見直しと併せて、賃金体系の抜本的な改善を要求し、その必要性について前理事長は組合と同様の認識を持っていると表明していたが、未だ抜本的改定には至っていない。)

なお、新年の集いに出られなかった組合員の方および非組合員の方も含めて、今後、あるべき学園運営・労働環境を目指すべく、ご意見をお待ちしておりますので、どうかよろしくお願ひ致します。
(文責：大杉由香)

今年もより質の高い教育提供と研究環境の改善をめざして交渉を進めていきます！
皆様のご意見・ご支援を！

本紙は大学組合webサイト<http://www.boreas.dti.ne.jp/daito-un/>にも掲載しています。

本紙へのご投稿、ご意見、ご質問は daito-un@boreas.dti.ne.jp にお寄せください。